



勅命社 風浪宮

風浪宮 百年の杜プロジェクト

～令和 新しき御世の幕開け～

阿曇 史久氏 × 津村 洋一郎氏 × 高橋 一精氏 × 大矢野 栄次氏



令和時代が幕開けし早半年が経過した今。先日の大嘗祭をはじめ国内でさまざまな奉祝行事が予定される中、大川市風浪宮では市内中学校の統合により70年ぶりに学校用地が返還されることを機に、記念事業「百年の杜プロジェクト」が計画されています。記念事業の内容や風浪宮の歴史、地域と神社の関わりについて、阿曇史久氏(風浪宮宮司)、津村洋一郎氏(大川商工会議所会頭)、高橋一精氏(大川観光協会会長)、大矢野栄次氏(久留米大学学長特別補佐)にお話を伺いました。



久留米大学学長特別補佐
大矢野 栄次氏



阿曇 見に行くのが楽しみでしたよね。それとここには八女との物々交換の歴史があつて、お祭りのときには干し柿がたくさん売られていました。現在も風浪宮大祭では干し柿市が立ちます。

津村 昔も今もかたちを変えながら地域の人たちに親しまれていて感じます。今は大川中学校がある神社の東の敷地に、昔はサカスなど見世物小屋が来ていました。そう、化け物小屋ともありました。

高橋 誰もが何かあればお参りに行く場所です。私自身も先日は孫のお参りに行きました。正月の初詣も道路まで続くほどの行列ができます。年に1回の風浪宮大祭はもちろんです。前夜に若津神社から風浪宮まで走る「裸ん行(はだかんぎょう)」は毎年遠方からも含め600人ほどが参加し大いに盛り上がりです。



風浪宮の歴史について教えてください。

阿曇 本殿は福岡県内で二番目に古い神社本殿建造物で、国の重要文化財に指定されています。本格的に改修に着手したのは今年4月からで、主に柱などの塗り替えや屋根の葺き替え、そして耐震のための工事をしています。これから来年3月までかけて避雷針の工事なども行い、私たちの大切な「宝」を災害から守っていくことに注力します。



第六十七代 風浪宮宮司
阿曇 史久氏

風浪宮では現在 記念事業の一環として御本殿の大改修工事が始まっていますね。



百年の杜記念事業奉賛会 会長
大川商工会議所会頭
津村 洋一郎氏

阿曇 神社の東側にある大川中学校は、平安時代に風浪宮の東宮があつた場所だと言われています。中学校の統合により来年4月をもって6千坪ほどある敷地が70年ぶりに返還されることになり、長年西宮だけだった風浪宮に東宮が返ってくるとも言えます。

そのような深い歴史ある風浪宮が令和という新しい時代を迎えている今、計画されている「百年の杜プロジェクト」とはどのようなものですか。

阿曇 神社の東側にある大川中学校は、平安時代に風浪宮の東宮があつた場所だと言われています。中学校の統合により来年4月をもって6千坪ほどある敷地が70年ぶりに返還されることになり、長年西宮だけだった風浪宮に東宮が返ってくるとも言えます。

大矢野 古事記や日本書紀において天照アマテラスと素戔嗚(スサノ)の誓約で生まれた女神、宗像大神(ミコト)の最高神として航海の安全や交通安全などを祈願する宗像三神は、よく知られていますが、世界遺産の沖ノ島には元々「正三位社」と称する少童命(ワタツノミコト)を祭神とする神社があつたことが分かっています。この少童命(三女神)は沖津宮(沖ノ島・志賀海神社(志賀島)・風浪宮)の三所に祀られていると言われていて、この3つの神社を地図上で結ぶと、きれいな一直線になり、宗像とも大変深い関係性であると考えられています。この地域の方たちは風浪宮をとても大切にしていますが、歴史を紐解くと大川だけでなく日本全体にとって重要なお宮であることがよくわかってきます。

阿曇 風浪宮は古来より筑後一円から多くの崇拜を集め、鎮座千八百有余年を数える大社です。平安時代初期には東社西社を持つ格式を備え、江戸時代には海上守護の神として大坂(阪)廻船問屋衆をはじめとした信仰を受けるなどの歴史があります。海洋民族阿曇氏を初代とし、有明海における海洋民族の根拠地でもありました。



大川観光協会会長
高橋 一精氏

風浪宮はこの地域では昔から「おふらうさん」と呼ばれ親しまれていそうですね。



津村 市民の皆さんや行政、国の力もお借りしながら構想を実現させ、風浪宮を大切にしようという思いを広げると再生の契機になってほしいです。

阿曇 神様に見守られながら誰もが安心して過ごせる杜があるのは、地域にとっても日本にとっても素晴らしいことだと思います。百年先を見据えた杜づくり(に)ぜひともご理解とご協力をお願い申し上げます。

高橋 まず皆さんが「行ってみたい」と思える魅力あるスポットであり、そのうえで少しずつ歴史も学べるような神社になるとういことです。

阿曇 風浪宮の地より宗像三神が祭られている沖津宮・志賀海神社を遥拝できる施設を、中心部に作ります。沖津宮のある沖ノ島は中国の長安と同じ緯度があり、日本ではなかなか見えない老人星(カノープス星)が古墳に描かれているのですが、それと同じようなものを天井に描きたいと思っています。風浪宮のルーツである海洋民族阿曇は真つ暗な中で星を頼りに中国をめざしたとも言われており、そういったところでも風浪宮の歴史や沖ノ島とのつながりを感じていただけたら嬉しいです。

構想の具体的な内容を聞かせてください。

そうした広大かつ大切な土地を、誰もが気軽にくつろぎながらも歴史に思いを馳せることができるような、緑に囲まれた憩いの場に作り上げていこうと考えています。



風浪宮ご本殿 改修工事によせて

ご本殿の修理を担当させて頂き、感謝申し上げます。今回の修理では、伝統工法の膠(にかわ)による丹塗(にぬり)になりました。膠は樹脂などに比べて弱いですが、修理をする時は除去しやすいので、建物への負担が少ない特徴を持っています。透かしの金具がついている木口は調査の結果、黄土から墨塗りに戻し、二層引き上げつようになりました。ぜひご覧ください。



勅命社 風浪宮

◆お問い合わせ
風浪宮社務所内
「風浪宮百年の杜記念事業奉賛会」事務局

鎮座地 / 〒831-0016 福岡県大川市大字酒見726-1
TEL 0944-87-2154 FAX 0944-87-8543
<http://www.ofurousan.or.jp/>

風浪宮本殿大改修 御鎮座1820年式年大祭、神苑整備

第1期 平成31年1月～令和4年3月

1. 国重要文化財(旧国宝)風浪宮本殿大改修工事並び奉祝祭
2. 境内、神苑整備工事(平成31年～令和4年)
3. 御鎮座1820年式年大祭奉斎(令和3年秋予定)